

倫理委員会 10月15日(金) 報告事項

- (1) 日本ヘルスケア協会の動き
別紙「ニュースリリースNo.65 (10月12日発行)」
- (2) 議事
- 1) 報告事項(1) 「サンドボックス実証実験の状況報告」
期間終了と第三者委員会の開催
- 令和3年2月1日 13:00~14:30 第三者委員会 第2回会議
 - 2月中旬~ 実証実験参加企業公募
 - 2月下旬~ 応募企業に対して同意書の取得、マニュアル使用許可証の発行
 - 3月上旬~ 応募企業に対して実証実験サンプル動画の送信
 - 3月25日 消費者庁より表示マニュアル原案の一部修正提示
 - 4月1日~ 修正マニュアルをテキストに応募企業に対して説明会・勉強会の開催、POPの作成等
 - 4月~8月 応募12企業、20店舗を対象に実査(店頭POP表示調査員の臨店による来店客アンケート調査および店舗関係者アンケート調査)
 - 8月31日 実証実験期間終了
 - 9月上旬~10月 内閣官房、農林水産省、消費者庁とリアルおよびWEBにより最終報告書作成に向けての打合せ
 - 11月8日(月) 10:00~12:00 第三者委員会 第3回会議
 - 11月末日 最終報告書提出
- 2) 報告事項(2) 「ドキュメンタリー映画『終わりの見えない闘い~コロナと中野保健所』の自主上映会計画」
- 小泉改革による保健所の統廃合の結果、手薄になった職員数と初めて経験するパンデミックの中で、過酷な勤務を強いられることになった保健所が、体制も整わない中で、感染を心配する地域住民から、日々どのような対応を迫られたか。また手探りでどのような体制を敷いたか。東京・中野保健所を舞台に、2020年6月から2021年3月までの10か月間、一人の女性監督が密着し、150時間にわたって記録した映画を100分にまとめたドキュメンタリー映画がこの10月か

ら公開されたのを受け、制作に協力された地元帝京平成大学看護学科の工藤恵子教授、薬学科の小原道子教授（J A H I 理事）の推薦で、J A H I をはじめ、多くの関係者に視聴してもらい、情報共有してもらうため、J A H I 事務局が、11月30日（火）0：00～12月2日（木）23：59の3日間、無償の動画配信によって上映会を企画するもの。（ニュースリリースNo.65 参照）

自主上映の手引き

終わりの見えない闘い

-新型コロナウイルス感染症と保健所-

カラー 100分 STEREO

 文化庁 文化芸術振興費補助金

(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

映像素材：Blu-ray/DVD/動画配信

監督：宮崎信恵

ナレーター：益岡徹

企画

公衆衛生保健所活動研究会

ピース・クリエイト有限公司

製作・配給・著作

ピース・クリエイト有限公司



企画意図

本格的な冬の到来と歩調を併せるように新型コロナウイルスの感染が急増。命の選別や医療崩壊という言葉が毎日取り交わされ、医療機関のひっ迫が私たちの不安を大きくしています。そうした中でコロナ対応に追われる保健所もまた戦場さながらの状態になっています。しかし、保健所が新型コロナウイルス感染拡大防止にどのような役割を果たしているのか、その姿は目に触れることはなく、多くの人には知られていません。

住民のいのちと健康を守る公衆衛生は国の骨幹でもある「命の安全保障」ともいえる重要な課題です。この映画は新型コロナウイルスが私たちの生活を一変させた2020年春から今日の第3波感染拡大までの約10か月間を公衆衛生の最前線である保健所にカメラを据え、コロナ感染拡大防止に当たる保健師や公衆衛生医、他の保健所職員たちの奮闘と葛藤、苦悩をドキュメンタリーで描く中で、保健所機能の役割と今日的課題を見ていきます。

映画製作のきっかけ

住民の命と健康を守りたい！

この体験を後の感染症対応に活かして欲しい！

保健所でコロナ対応に追われる職員の悲鳴から製作は走り出した

映画をつくらうとしたきっかけは、第一波の感染拡大が起きたときに保健所業務に従事した保健師たちの体験からでした。

2020年2月から3月にかけて、「帰国者・接触者相談センター」が開設された中野区保健所では電話回線も新型コロナウイルス感染症に対応

2021年に入った今、感染拡大の第三波が押し寄せ、感染拡大の波は止まらない勢いで進んでいます。そんな中、マスコミで連日報道される重症患者の増加による医療崩壊の危惧どころか、ベッド不足が深刻な現実問題になってきました。

1月8日、政府は2回目の緊急事態宣言を発出し対策に乗り出しました。

この年末年始にかけての保健所では、みんな暮れも正月も休日返上。急増する陽性患者の数の多くに第一波の時以上の緊張した状態が続き、深夜にかけても作業は終わらず、その日に終わらせなくてはいけない疫学調査も積み残すありさま。終わりの見えない悪戦苦闘にみんな疲労困憊です。

果たしてこの状態がいつまで続くのか？

「保健所が頑張っている」というイメージを伝える映画を制作する

これまで災害現場など健康危機時に保健師等が活躍する映像は数多くつくられてきました。しかしそれらは、ある程度事態が収束したのちに過去を振り返る映像が殆どです。社会的には保健所機能のひっ迫が心配され、機能強化が緊急の命題になっている今、現在進行形で、関係者の生の声と姿を通して描きます。そして多方面からこの貴重な映像に対する期待が寄せられています。完成は2021年7月を予定しています。

映画の対象

一般

医療・看護・保健・福祉関係従事者及びその学生

(一財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は9月14日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

1. J A H I は日本医師会の治験促進センターの共催セミナー開催に協力しました

CRC (治験コーディネーター) は製薬会社が新薬を開発する時、最終段階で人体への有効性と安全性を確認するための臨床試験 (= 治験) の調整役を果たす重要な職種であり、今回の新型コロナウイルス感染症蔓延のような臨床試験を取り巻く環境の変化の中、CRC が担う業務は多様化し、より煩雑となっています。

日本医師会の治験促進センターはこの度、臨床試験支援財団との共催により、「第21回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2021 in 横浜」を開催しました。「未来へつなぐ〜クオリティの確保と臨床試験チームの飛躍〜」をテーマに、患者側のコミュニティが加わった新たな臨床チームにおいて、CRCはどのように協働し、どのような役割を担っていくのかについて、WEB開催の形で議論が進められました。J A H I は今西信幸会長を講師として派遣し、「医療のRWD調査報告・活用事例とAIホスピタルについて〜日本医師会ORCA管理機構データを用いたAIによるインフルエンザ予報等〜」を、先日のJ A H I 活動発表会で「インフルエンザ予報」を紹介した日立製作所研究開発G. の丹藤匠氏とともに講じました。また、協会理事で帝京平成大学教授の小原道子氏は同セミナーの座長を務められています。J A H I は新しい形の連携関係を築き始めています。

なお、インフルエンザ予報サービスは、今後AIの学習データとして、過去の一定期間の罹患患者数情報等が蓄積されれば、新型コロナウイルス感染症を含む様々な感染症の情報発信に応用できるものと考えられています。

2. ドキュメンタリー映画『終わりの見えない闘い〜新型コロナウイルス感染症と保健所』の動画配信による自主上映会を行います

住民のいのちと健康を守る公衆衛生は国の根幹でもある「命の安全保障」ともいえる重要な役割であり、その最前線に立たされた保健所は、この度の新型コロナウイルス感染症の蔓延に対して、手薄になった職員数と初めて経験するパンデミックの中で、土曜も日曜も無い過酷な勤務を迫られることになりました。2020年2月から3月にかけて、「帰国者・接触者相談センター」が開設された東京・「中野区保健所」では電話回線も、対応する保健師の体制も整わない中、感染を心配する区民から殺到する電話の対応に追われました。

朝、保健所に着いて荷物を置く間もなく、鳴り響く電話の受話器を取る日々。しびれを切らした相手からは罵声を浴びせられ、ひたすら頭を下げ、無我夢中での対応が続く中、SNSでは保健所非難の投稿が続発する戦場さながらの緊迫した毎日。

これまで体験したことのない危機的状況に、誰からともなく「この体験を雲散霧消させることなく記録に残しておかなければ」との思いから出来上がった10カ月の記録がこのドキュメンタリー映画です。

当協会では、帝京平成大学看護学科の工藤恵子教授、薬学科の小原道子教授の推薦により、本作品をできるだけ多くの関係者に視聴していただくため、下記の期間、無償で動画配信することといたしました。 <11月30日(火) 0:00~12月2日(木) 23:59>

視聴を希望される方は、近日中にJ A H I ホームページに掲載される申込書によってお申込みください。

3. その他

- (1) 「お米で健康推進部会」第1回部会：10月27日(水) 13:00~15:00 開催
- (2) 「野菜で健康推進部会」第三者委員会：11月8日(月) 10:00~12:00 開催
- (3) 昭和女子大学・寄附講座：10月7日開講。来年1月27日まで全15回。
- (4) 今西会長対談はオムニバス・荻野社長、ZERO-ONE 松葉社長の順で進捗しています。